

まちの様子

	(仮称)JR以南地域	片山・岸部地域	豊津・南吹田地域	千里山・佐井寺地域	山田・千里丘地域	(仮称)千里ニュータウン・万博・阪大地域	
						(その1)千里ニュータウンを中心とするエリア	(その2)万博記念公園・大阪大学を中心とするエリア
人口	人口減少が続く中で、高齢化が進んでおり、高齢化率は20%を超えています。また、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の比率が非常に高くなっています。	人口減少が続く中で、高齢人口や年少人口の比率は全市平均並ですが、高齢単身世帯の比率が高くなっています。	<u>地域全体でみると、人口増加が続く、単身世帯の比率が非常に高くなっています。しかし、この地域は、これまでのまちの発展状況の違いにより、異なった3つの地区で構成されています。</u> <u>豊津地区では、人口及び世帯数が著しく伸びています。15～64歳の比率が非常に高く、単身世帯の比率も高くなっています。</u> <u>吹二地区では、世帯数があまり変動していない中で、人口減少が続いており、世帯人員の減少と高齢化の進行がうかがわれます。</u> <u>吹南地区では、人口増加が続いており、0～14歳の比率が全市平均を超えています。また、若年ファミリー層の流入が進んでいます。</u>	人口増加が続く中で、年少人口の比率が高く、18歳未満の子どものいるファミリー世帯の比率も高くなっています。 <u>特に、区画整理によりまちがつくられた佐井寺・五月が丘地区では、年少人口、ファミリー世帯の比率が非常に高く、若い人口構成となっています。</u>	<u>地域全体でみると、人口増加が続く、年少人口の比率が高く、18歳未満の子どものいるファミリー世帯の比率も高くなっています。しかし、この地域は、これまでのまちの発展状況の違いにより、異なった2つの地区で構成されています。</u> <u>山田地区では、世帯数が増加しているものの、人口はほぼ落ち着きをみせています。高齢化率はまだ低い状況ですが、緩やかに進行しています。</u> <u>千里丘地区では、企業所有地が民間の共同住宅に建て替わる中で、人口が急増しており、若年ファミリー層の流入が進んでいます。</u>	人口減少が著しく、全市の中で最も高齢化が進んでいます。また、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の比率が非常に高くなっています。	上山田での住宅開発に伴い、18歳未満の子どものいるファミリー世帯を中心に、人口が増加しました。
土地利用・住宅	全市の中で工場地の比率が最も高く、緑地等の比率が最も低くなっています。 一戸建と長屋建住宅の比率が過半数を超えており、木造建物床面積率も高くなっています。 住宅地の評価について、「緑の豊かさや自然環境」「周辺の眺望や街並み・景観」に対する満足度が極めて低くなっています。	一戸建と長屋建住宅の比率が高く、木造建物床面積率も高くなっています。 住宅地の評価について、「道路や歩道の整備状況」に対する満足度が低くなっています。	商業業務地の比率が高く、緑地等の比率が低くなっています。 全市の中で民間賃貸共同住宅の比率が最も高くなっています。 <u>豊津地区では、共同住宅の占める比率が8割を超え、中でも6階建以上が約5割となっています。</u> <u>吹二地区では、一戸建が約5割となっている一方で、6階建以上の共同住宅の比率は極めて低く、他の地区と大きな違いをみせています。</u> 住宅地の評価について、「緑の豊かさや自然環境」「周辺の眺望や街並み・景観」「騒音や大気汚染の少なさ」に対する満足度が低くなっています。	民間賃貸共同住宅の比率が高くなっています。 <u>佐井寺・五月が丘地区では、共同住宅の比率は約8割を占め、中でも6階建以上が約5割となっています。</u> 住宅地の評価について、「緑の豊かさや自然環境」「周辺の眺望や街並み・景観」に対する満足度が高くなっていますが、「行政サービス施設の利便性」に対する満足度が低くなっています。	共同住宅6階建以上の比率がおよそ半数を占め、持ち家の比率が全市の中で最も高くなっています。 <u>山田地区では、共同住宅の占める比率が8割を超え、中でも6階建以上が約6割と極めて高くなっています。また、持ち家の比率も市内で最も高くなっています。</u> <u>千里丘地区では、一戸建、共同住宅5階建以下、共同住宅6階建以上のそれぞれがほぼ同じ比率で混在しています。また、持ち家の比率も高くなっています。</u> 住宅地の評価について、「職場への通勤の利便性」に対する満足度が低くなっていますが、「緑の豊かさや自然環境」に対する満足度が高くなっています。	共同住宅5階建以下の比率が約6割を占め、公営・公団・公社の借家の比率が約6割となっています。 住宅地の評価について、「緑の眺望や街並み・景観」に対する満足度が極めて高く、地域の総合評価も高くなっています。	緑地等の比率が約8割を占めています。 住宅が立地しているところは限られた部分であり、共同住宅6階建以上の比率が9割以上を占め、持ち家の比率が約8割となっています。

	(仮称)JR以南地域	片山・岸部地域	豊津・南吹田地域	千里山・佐井寺地域	山田・千里丘地域	(仮称)千里ニュータウン・万博・阪大地域	
						(その1)千里ニュータウンを中心とするエリア	(その2)万博記念公園・大阪大学を中心とするエリア
コミュニティ・福祉	<p>平均居住年数が最も長く、吹田市に対してふるさと意識を持つ市民の割合も高くなっています。また、自治会や高齢クラブへの加入率が高く、コミュニティセンターでの協議会活動をはじめ、さまざまなコミュニティ活動が行われています。</p> <p>保育所入所児童や留守家庭児童育成室入室児の比率が高く、また、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の比率も非常に高いことが伺えます。</p>	<p>平均居住年数が長く、吹田市に対してふるさと意識を持つ市民の割合が最も高くなっています。</p> <p>保育所入所児童の比率が高く、また、高齢単身世帯の比率も高いなど、福祉ニーズが高いことが伺えます。</p>	<p>単身世帯が約半分を占める中、自治会への加入率は吹二地区を除いて全体的に低く、「地域の行事や活動にほとんど参加していない」と回答した市民が6割を超えています。その一方で、企業も含めたボランティア活動など特色あるコミュニティ活動が行われています。</p> <p>留守家庭児童育成室入室児の比率が高くなっています。</p>	<p>平均居住年数が短く、吹田市に対してふるさと意識を持つ市民の割合も低くなっています。また、「地域の行事や活動にほとんど参加していない」と回答した市民の割合が高くなっています。その一方で新たなコミュニティ活動が行われています。</p> <p>18歳未満の子どものいるファミリー世帯が多い中、保育所入所児童や留守家庭児童育成室入室児の比率が低く、家庭での子育ての比率が高くなっていることが伺えます。</p>	<p>平均居住年数が短く、吹田市に対してふるさと意識を持つ市民の割合も低くなっています。その一方で、コミュニティセンターでの協議会活動をはじめ、<u>西山田地区集会所等を拠点に活発なコミュニティ活動</u>が行われています。</p> <p>18歳未満の子どものいるファミリー世帯が多い中、保育所入所児童の比率が全市平均と比べて低く、家庭での子育ての比率が比較的高いことが伺えます。</p>	<p>吹田市に対してふるさと意識を持つ市民の割合は高くなっています。また、自治会加入率は高く、さまざまな行事の開催やコミュニティ活動を通じて、住民の交流が進み、NPOなどによる新たな取組も進められています。</p> <p>高齢化が進む中、特に高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の比率が非常に高く、福祉ニーズが高いことが伺えます。</p>	
産業	<p>豊津・南吹田地域に次いで事業所が集積していますが、事業規模が小さい小売業商店が多く、商店数と販売額がともに減少傾向をたどっています。</p>		<p>全事業所の約4割がこの地域に集積しており、商業・業務機能の中心地となっています。特に卸売業の集積が突出していますが、年間販売額は減少傾向にあります。</p>				